

令和 6 年度 倉敷市地域福祉基金助成事業実施アンケート

助成期間: 2023 年度～ 年度

団体名: フリースペース 和みの木

一年活動をしての感想

※参加者に喜んでもらったこと、地域福祉基金からの助成がこういったことに生きていることなどを自由に記載してください。

(記載例)

①実施した内容

・フリースペースの開設…不登校・引きこもりがちな子どもとその家族の、社会的・精神的な孤立を防ぐため、毎週火曜日、代表者の自宅を使って居場所を作って2年目となる。

利用者の表情も明るくなり、フリースペースでの会話がふえる。活動も積極的になったため、他団体のイベントに参加することができる。

学校やSSWへ、対象の子供の状態の報告をしたり、ケース会議へ参加するなど、連携が取れるようになる。学校・SSWからの紹介の子供の受け入れもできている。

フリースペースへ関わるボランティアの人数も増えはじめている。

・なごCafé(家族のための座談会)…学校に行きづらさを感じている子を持つ家族のための居場所として8月以外の毎月第3金曜日に、玉島市民交流センターを使って開催。

日頃抱えている悩み、不安を話したり、同じ問題を抱えている人同士で情報交換をする場となる。

今期は、なごCaféの開催を広く告知するまでには至らなかったため、利用者の数がふえなかったが、フリースペースを利用している保護者にとっては、今後の見通しや、家での関わり方の相談の場として活用していただけた。今後は、SNSやチラシを使って告知の仕方を工夫したい。

・他団体のイベントへの参加

利用者の引きこもりがちな生活状況と、フリースペースの活用による前向きな変化を鑑み、他団体との交流を積極的に行った。子どもたちの意見を取り入れながら、わたあめ作りや、ヨーヨー釣りなどで参加。また、公共交通機関を利用しての活動も取り入れた。この事をきっかけとして、子供同士で計画を立てて出かけることが出来るようになる。

②参加者の感想

・フリースペースの活動では、「子供が明るくなった」「出かけられるようになった」などの声がある。他にも、「毎日お風呂にはいれるようになった。」「よく話すようになった」「朝起きれるようになった」など、子供の日常の変化の報告を受けている。学校へ登校できるようになった子、高校へ進学した子もいる。

・Dayキャンプ、子育てマルシェの参加では、「親子で楽しい時間が過ごせた」「親同士の交流がうれしかった」とのこと。なごCaféの参加者からも同じような声をいただいている。

③地域福祉基金の有用性

・子供の精神の安定と自立のためには、一緒にお菓子作りや料理をすること。そして一緒に食すことの重要性を感じている。そのためフリースペースでは食事を提供することになっているので、食糧費がかかる。一部は利用者に負担してもらったり、フードバンクを利用しているが、地域福祉基金によって利用者の負担が軽くなり、生活保護を受けているなどの状況を抱えている子の、利用のしやすさに繋がった。

また、フリースペースで利用者が過ごしやすくするための、折り畳みマットなどの備品も充実してきた。わたあめメーカーはフリースペースを利用している子が、他団体のイベントに参加して、多くの人と関わっていくための活動に大いに役立っている。

④今後の展開・夢・課題など

・今後も前年度同様、利用者の要望に合わせてフリースペースの開催日や開催時間を増やし、関わるスタッフの数も増やしていけたらと思う。

・不登校の問題を抱える子ども自身と、家族のサポートを広く支援していきたい。SNSやチラシの配布などを工夫していく必要を感じている。

・不登校の問題を抱える子どもと家族が孤立せず社会の中で生き生きと暮らせるように、また不登校問題にかかわらず、広く子育てをする人のサポートを続けたい。

・今後も、音楽イベントや、ワークショップなど、様々なイベントを通して様々な関係支援者と連携を取りながら、不登校問題を抱える家族をはじめとする子育ての支援を続けていきたい。

※このアンケートは、地域福祉基金の助成を受けたことのある団体から、事業開始後5か年度の期間提出していただくものです。